

港南通信

2025年12月 第3号

社会福祉法人 十愛療育会
横浜医療福祉センター港南
横浜市港南区港南台4-6-20
TEL:045-830-5757(代表)
FAX:045-830-5767
発行責任者：榊原 利絵子

抽選会
目指せ1等!!

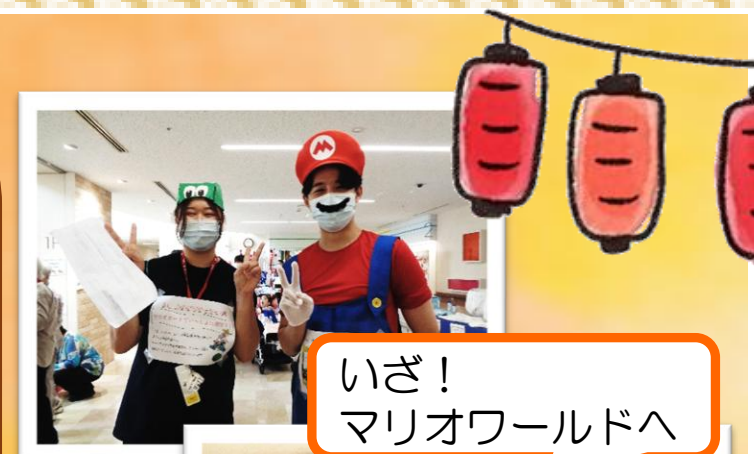


とちのき祭 盛況のうちに終了!

去る10月18日「とちのき祭」を盛大に開催し、無事に終了いたしました。入所・外来のご利用者の皆様とご家族様、関係施設・機関の皆様、そして地域の住民の方々など、予想を上回る多くの方にご来場いただき、心より感謝申し上げます。

職員一同による出店に加え、関係機関や地域の方々に出店やコンサートなどでご協力いただき、会場は活気にあふれ、皆様の笑顔で満たされました。入所・外来のご利用者の皆様も地域の方々との温かい交流を楽しんでいただく貴重な機会となりました。

今回の交流を通じて、当施設がより一層地域に根差した施設となるよう、職員一同、努めてまいります。今後ともご理解とご支援をお願いいたします。ご来場、誠にありがとうございました。



いざ!
マリオワールドへ



ハロウィン

10月下旬、当施設では各部署で趣向を凝らしたハロウィンイベントを開催しました。

利用者の皆様に季節の行事を楽しんでいただきたいという思いから、職員一同、心を込めて準備を進めてまいりました。当日の賑やかな様子をご紹介します。



港南・秋の音楽会

「浅川那由多氏 ヴァイオリンコンサート」開催レポート

9月5日、港南家族会が主催する「港南・秋の音楽会」が盛大に開催されました。昨年に引き続き、ヴァイオリニストの浅川那由多氏をお迎えし、素晴らしいコンサートを開催することができました。ご利用者やご家族の皆様にとって、心に残る笑顔あふれる素敵なひとときとなりました。

地域との交流と感動のひとときを

今回は誌面の都合上で写真のご紹介はできませんでしたが、他にも「虹のコーラス隊」「ちょっとずつアンサンブル」「クラシックヨコハマ」など、多彩なゲストによるコンサートが実施されました。当施設では、このような地域の方々との交流を通じて、ご利用者を始め地域の皆様にも喜びと彩りを添える活動を積極的に続けてまいります。



裏面もご覧ください

質の高い支援を支える人材育成：教育委員会主催研修活動報告

看護の実践を支える重要な能力の一つに「ニーズを捉える力」があります。特に重症心身障害児者の看護においては、その人らしい人生を支援するために、この力を養うことが不可欠です。今年度、新卒から2年目の看護師を対象に、「多角的な視点で利用者ニーズを捉える！実践型カンファレンス研修」を全6回にわたり実施しました。「利用者のニーズを捉えるための情報とは」「ニーズを捉えた看護とは」といったテーマについて深く議論し、実践とフィードバックを繰り返すことで、参加した看護師それぞれが利用者のニーズへの理解を深める半年間となりました。

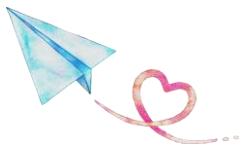


「幅広い層への継続的な教育」

当施設では、組織全体の質の向上を目指し、多岐にわたる研修を継続的に実施しています。新入職者向け、現任職員向け、リーダー層向けの研修に加え、社会福祉協議会や看護協会が主催する外部研修への参加など、多数のプログラムを実施しています。

これらの継続的な学びを通じて、今後も全職員が連携し、安全で質の高いケアを提供できるよう、取り組んでまいります。

横浜市立大学医学部 福祉施設実習の受け入れ



当施設では毎年、横浜市立大学医学部1年生の福祉施設実習を行っています。

学生の皆さんは、利用者の皆様との交流や生活支援、看護などを見学・体験し、医療と福祉のつながりを学ばれました。

「利用者の方の笑顔が印象的だった」「生活を支える支援の大切さを感じた」との感想が寄せられ、私たち職員にとっても、学生の皆さんのまっすぐな姿勢や熱意に触れ、日々の支援を振り返る良い機会となりました。今後も当施設では、次代を担う医療・福祉人材の育成に貢献できるよう、教育機関との連携を続けてまいります。



9月20日（土）ラスカホール茅ヶ崎 神奈川県重症心身障害児者関係施設協議会 実践報告会

午前中は、茅ヶ崎支援学校による基調講演「小学部から高等部までの学びのつながりと進路支援」が行われ、教育と福祉の連携の重要性について理解を深めました。午後は、県内の重症心身障害児者関係施設が「利用者のより豊かな生活を目指して」をテーマに、さまざまな工夫を凝らした活動や支援の取り組みを発表しました。

当施設からは、2EAST看護主任の大澤さんが、「音声録音再生機を用いた重症心身障害児・者の名前確認方法の考案」について発表し、その内容が高く評価され奨励賞を受賞しました。



また、外国人材の採用と支援体制づくりに関する発表もあり、時代を反映した新たな取り組みとして注目を集めました。当施設からも複数の職員が参加し、他施設の多様な実践に触れることで、今後の支援に活かせる多くの学びを得る貴重な機会となりました。

お役立ち情報「インフルエンザの基礎知識と注意点」

○流行と検査のタイミング

インフルエンザは例年より早く、今年は10月頃から流行が拡大しています。検査を受ける適切な目安は、発熱してから12時間以降48時間以内です。早すぎるとウイルス量が少なく陰性となる可能性があり、遅すぎるとウイルスが減少し検出されにくくなります。

名称	タミフル	ゾフルーザ	イナビル	リレンザ	ラピアクタ
製品写真					
投与方法	内服		吸入		点滴
投与回数	1日2回5日間	1回で終了	1日2回5日間	1日2回5日間	1回で終了



○症状が出た時の対応

発熱時は脱水予防のため、こまめに水分補給をしましょう。呼吸器症状には加湿が有効です。治療薬は内服、吸入など様々ですが、既往歴により使えない薬もあるため、医師とよく相談して選択してください。診断後、学校の出校停止は「発症後5日かつ解熱後2日」が目安ですが、社会人の出勤停止期間は職場により異なりますので確認しましょう。

○すぐに受診が必要な症状

水分摂取ができない、脱水症状（尿量減少、濃縮尿、口腔内乾燥など）、咳がひどく嘔吐してしまう、眠れないなどの症状がある場合は、昼夜を問わずすぐに再受診が必要です。

編集後記

今号も広報誌をお読みいただき、ありがとうございます！港南通信は、皆様に「読んでよかった！」「役に立った」と感じていただける広報誌を目指しています。そのため、皆様が知りたい情報に関して教えていただきたく、アンケートを実施させていただきます。ご協力よろしくお願いします。

生活支援主任 城田



アンケートは
こちらから →

